



中山 徹 先生 送別の辞

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉武, 信二 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15339

中山 徹 先生 送別の辞

人間社会システム科学研究科 社会福祉学専攻主任

吉 武 信 二

このたび、長きにわたる専攻への貢献を果たされ、2017年3月末をもって退職となった中山徹教授に対し、僭越ながら専攻主任として送別の辞を述べさせていただきます。

中山先生は、1975年3月に中央大学経済学部経済学科卒業後、中央大学大学院経済学研究科博士前期課程、および後期課程に進学され、1991年に大阪府立大学に着任されるまでの間、国民経済研究協会専門研究員、東京都信用金庫協会研究センター嘱託研究員などを務められました。1991年4月より、大阪府立大学社会福祉学部講師として着任され、1995年に助教授、2000年に教授に就任、以後2017年3月までの26年間にわたり、本学の教育研究に尽力されました。

この間、大阪府立大学では府立三大学統合、学域再編など、大がかりな組織改革が行われ、改革のたびに規模を縮小せざるを得ないような社会福祉学に対する厳しい状況の中で、中山先生は一貫してこの領域で活躍され、数多くの功績を積み重ねられました。

中山先生の研究業績の中心は、ホームレスに代表される生活困窮者の支援についての研究といえましょう。執筆された6編の著書では、高齢在日韓国・朝鮮人の大阪における高齢福祉の課題や欧米のホームレス問題に対する支援事例に言及するものから、南大阪における新しい仕事づくりと地域再生など実践的な提言に至るまで、この領域における社会保障のあるべき姿を追究してこられました。地域貢献の使命を負う公立大学にあって、地元大阪における様々な社会問題解決に直接切り込むことは、本学においても重要な研究テーマであり、その中心的な役割を担って頂きました。

学生教育においては、ゼミで現場に赴き、調査を行うことを基本にされていました。ホームレス、在日韓国・朝鮮人、高齢者等に、彼らの生活の場で直に触れることを、常に心がけておられました。ゼミの卒業生は、医療ソーシャルワーカー、自治体福祉職、社会福祉法人やNPO職員等さまざまですが、皆さん、それぞれの現場で活躍されています。

先生は、国や自治体が法律の定めに従って定期的にホームレス調査をしている現在よりもはるかに前から、社会政策学者として大阪でホームレス調査をしてこられました。大阪府、大阪市、尼崎市など、我が国の、ことに関西におけるホームレス調査の先駆者、フロントランナーとして、長年、経験を積み重ねてこられました。中山先生に力を借りずにホームレス調査を実施できない自治体も、少なくなかったと側聞しております。また、欧州やアジアのホームレス研究者、実践者との交流も開拓してこられ、我が国に多くの新しい知見を発信してこられました。ホームレス調査、在日韓国・朝鮮人調査、高齢求職者調査、いずれも結果をふまえて自治体施策の充実を働きかけてこられました。また、ホームレス支援については、求められる相談支援専門職の人材育成プログラムを開発し、実際に厚生労働省や関連団体と協働して多くの人材を育成してこられました。

昨今、社会福祉を取り巻く環境が大きく変化し、これに伴う大学組織改変も激動の時代を迎えています。そんな中で、新しい社会のニーズに応えながらも伝統的な社会福祉のあり方を求め続ける中山先生の姿は私たち後輩教員の範となり、この研究領域を充実発展させるための大きなエネルギーを与えて下さいました。その存

在を失うのは組織としても大きな痛手であることはいうまでもありません。しかし、残された私たちは中山先生の意志を決して絶えさせず、今後も精進していかなければならない使命を負っていることを強く自覚しなければならないと思っています。このような決意とともに、今後も名誉教授としてご助言を頂くことを期待しながら、送別の辞とさせて頂きたいと思います。

中山先生、長きにわたり、ありがとうございました。